

# 能登町初代町長 に就任

## 持木一茂氏が

# 能登町初代町長 に就任



### 持木町政がスタート!!

3月1日に誕生した能登町の初代町長を決める能登町長選挙は4月5日(火)に告示され、持木一茂氏が無投票で当選しました。

能登町初代町長に当選した持木町長は、4月11日(月)に役場に初登庁し、職員約150人に拍手で迎えられました。

初登庁後、坂井次雄選挙管理委員長から当選証書が付与されました。坂井委員長からは「旧町村の垣根を越え、融和を第一に、町民の声が正しく政治に反映されるようがんばってください」と言葉が贈られました。持木町長は受け取った当選証書をしっかりと抱え、委員長の言葉を受け止めていました。

その後、田形町長職務執行者と事務引継を行いました。引き続き町長就任式が行われ、職員に対し訓辞を述べました。この中で持木町長は、

「選挙で掲げた5つの町づくりを進めるために、誠心誠意努力することを誓います」と決意を新たにしました。



田形町長職務執行者より事務引継書を受け取る

### 就任のあいさつ

この度、町民の皆さまをはじめ各方面からの強いご支援とご厚情を賜り、初代の能登町長の重責を担わせていただくことになりましたことは、嬉しさとともに、身が引き締まる思いでいっぱいあります。また、新町発足時の折りには、田形町長職務執行者のおかげで町行政を平穩無事に運営されたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

能登町は、能登三郷という強い結びつきと歴史的なつながりのある縁で、3月1日誕生し、人口約23000人、面積も274km<sup>2</sup>とたいへん大きな町となりました。

少子高齢化と過疎化が進む奥能登の中で、能登町の特徴を生かすには第1次産業の大切さを再認識するとともに、すべての産業の振興を図っていききたいと思います。

新町のまちづくりのテーマは「奥能登にひと・くらしが輝く、ふれあいのまち」の構築であり、恵まれた海と山を生かし、人づくりのまちづくり・福祉のまちづくり・循環型社会のまちづくり・産業の活性化のまちづくり・交通と情報網のまちづくりを目指して行きたいと考えています。人づくりのまちづくりは、教育内容の充実・生涯学習の推進・総合型の地域スポーツの推進やボ

### 能登町長 持木一茂

ランテニア活動の促進などであります。

福祉のまちづくりでは、子育て支援の充実・介護サービスの充実や宇出津総合病院と地域医療機関の連携強化であります。

循環型社会のまちづくりでは、能登町の大きな財産である、豊かな自然を生かした循環型のまちづくりを構築するために、下水道整備とリサイクルの推進を図るものであります。

産業の活性化のまちづくりでは、起業支援などにより就業の場の充実を行い、若者定住を目指すものであり、海洋深層水を活用した特産品の開発などの農林水産物の加工や発酵文化の伝承開発などがあります。

交通と情報網のまちづくりでは、内浦地区のケーブルテレビの整備と幹線道路の整備促進を図ってまいります。また、のと鉄道の代替バスの利用についても、町民の利便性を考えた形態になるよう働きかけていきたいと思います。

財政事情は、年々厳しくなっておりますが、たくさんの課題や懸案事項を知恵と行動力で、一つ一つ解決し、能登町に生まれ育つて良かったと生涯言える町、住み続けたいまちづくりに邁進する所存でありますので、皆さまのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



町長、職員が一丸となり新たな町づくりが始まる

# 持木一茂町長就任インタビュー

## 町長に聞く！

就任おめでとうございます。無投票で初代町長となった今の気持ちをお聞かせください。

無投票ということは、特に感慨深いですし、住民の皆さんの意志の現れじゃないかと思っています。その分住民の皆さんの期待も大きいだろうし、無投票ということで、逆に責任の重さも強く感じています。

能登町誕生から2カ月近く経過しますが、この2カ月を振り返ってどのように感じますか。

3月1日に能登町がスタートして、2カ月近く経過したわけですが、田形町長職務執行者のもと、職員もがんばってくれて、大きな不便を住民の皆さんに与えることなく非常にスムーズで、いいスタ

ートが切れたんじゃないかと思っています。

旧3町村の融和と能登町としての一体性を図るためにはどのようなことが大切だと思いますか。

これまでの3町村がそれぞれ培ってきた歴史・伝統・文化を否定することなく、お互い認め合っていくことが融和を図ることになると思います。また、旧3町村にはすばらしい施設がたくさんあるので、住民の皆さんにまずは施設を知ってもらって、利用してもらおうことが一番じゃないかと思っています。

合併前には、新町になってから調整するという項目もありましたが、これからのような方針で調

整されていけるのでしょうか。

いろいろな調整事項については、まず町民のためになるか、ということを考えながら実行しているかなければならないと考えていますが、厳しい財政状況を考えながら、町民の方にも理解を求めて調整していかなければいけないと思っています。

合併前の旧柳田村、旧内浦町に対して抱いていたイメージはどのようなものでしたか。

柳田村は「ふれあいの里」、内浦町は「ロマンの里」、そのキャッチフレーズどおりの町や村であったと思うし、それを目指して町づくりをされてきたと思います。そのイメージを大切にしながら能登町としての新しいイメージを創

っていかなければいけないと感じています。

歴史や文化などはこれから学ばれるのでしょうか。

当然勉強していかなければいけないと思っています。大きな祭りとかは知っています。詳しくわからないですし、これからいろいろな所に顔を出して、人の話もたくさん聞いて、勉強させてもらいたいと思います。地名についても、初めて聞く地名がたくさんあったり、初めて行く場所もあるので、まず能登町のいろい

### 『おつかれさまでした』 田形 功 町長職務執行者が退任



4月11日(月)の持木町長就任式に引き続き、田形町長職務執行者の退任式が行われました。

田形氏は旧内浦町長として、また合併協議会副会長として能登町の誕生に尽力され、3月からは初代町長が決まるまでの間、町長職務執行者として務められました。任期は、3月1日から4月9日までの40日間でした。

田形氏は40日間を振り返り、職員に対して「短い期間でしたが、大役を務めさせていただきました。これからは持木町長を支えて、町民のみなさんに喜んでもらえるように、また能登町発展のために、渾身の努力をお願いしたい」と激励をしました。

退任式終了後、大勢の職員に拍手で見送られ田形氏は庁舎を後にしました。

るな所に足を運ぶことが大事だと思っています。

初代町長としてこれだけはやりた

いと思っていることは何ですか。

やらなければいけないことはたくさんありますが、まず内浦地区の有線テレビの整備です。内浦地区に取材に来ていても、自分たちがその様子を見れないわけですから、できるだけ早い時期に有線テレビを整備して内浦地区の方にも見てもらいたいと考えています。また、内浦地区には上水道未普及地区があつて「テレビよりも水道」ということも聞きました。合併したことにより旧能都町から管を引くこともできますので、コスト面からも調査する必要があると思います。こういったことは住民の皆さんの生の声を聞かないことには、どんなことを抱えているのかわかりませんから、皆さんの声をできるだけこまめに聞いていきたいと思っています。もちろんすぐにはできないこととできないことがあります。ひとつひとつやっています。

ありがとうございました。

### もちきかずしげプロフィール

昭和31年1月25日生(49歳)  
家族構成/妻・娘2人  
略歴/岐阜歯科大学を卒業後、持木歯科医院を開業。のとJ C理事長などを歴任し、平成11年12月から旧能都町の町長

### ちょっぴりプライベートな一問一答

Q 趣味は？

ゴルフとサッカー

Q 朝起きて最初にすることは？

牛乳を飲む

Q 好きな食べ物？

ハンバーグとオムライス

Q お酒は？

好きです

Q 子どものときのあだ名は？

かぼちゃん、かーぼちゃん

Q 座右の銘は？

「自分と他人を比べるな、昨日の自分と比べよ」

Q 一番大切なものは？

家族

Q 町長にとって能登町とは？

大好きな町なので、もっともっと知りたい。そして、もっともっと良い町にして、住民の皆さんに喜んでもらいたい。



日本一を目指していざ出陣！  
小木ミニバスケットボールクラブ



チームワークの勝利！鵜川中男子ソフトテニス部準優勝

# 日本一

## 佐々木・山瀬ペア全国制覇！

### 第4回全国小学生ソフトテニス大会（3/30～31）

石川県代表として能登町から全国大会に出場した各選手たちの全国大会成績報告会が4月6日、能登町役場で行われ、各種目ごとの対戦結果などについて報告がなされました。

3月21日から31日にかけて全国各地で開催された大会に出場したのは、小木クラブ（小木小学校：ドッジボール）、小木ミニバスケットボールクラブ（小木小学校）、能都ソフトテニススポーツ少年団男子・女子、鵜川中学校ソフトテニス部男子、能都中学校ソフトテニス部女子、小木中学校バスケットボール部女子の7団体で、各選手たちは「能登町」の名を広めるべく、全国の強豪を相手に全

力で戦ってきました。中でも全国小学生ソフトテニス大会の小学校4年生以下の部に出場した佐々木美和（宇出津小）・山瀬侑希（宇出津小）ペアは、激戦を勝ち抜いて見事全国制覇を果たし、大きなカップを手に優勝報告を行いました。同じく小学校5年生男子の部に出場した寺下洗平（鵜川小）・浜高彰仁（鵜川小）ペアは、予選を全勝で突破し決勝トーナメントに進出、準優勝を飾りました。

また、鵜川中学校ソフトテニス部男子は団体で準優勝、個人戦では釣谷祐太（3年）・善野功太（3年）ペアが第3位に入賞しました。

監督コーチ陣からは「教え子たちが全国のスーパースターたちと互角に戦っている姿を見て感動しました」との言葉も聞かれました。最後に田形町長職務執行者から「正々堂々と健闘してくれたことに心からお礼を言いたい。これからも技と精神力を磨いてください」と言葉をかけられた選手たちは、今後もそれぞれの目標に向かって努力していくことを誓っていました。



全国の頂点に立った  
佐々木（左）・山瀬（右）ペア



全国制覇まであと一歩！  
能都ソフトテニススポーツ少年団の寺下（写真左）・浜高（写真上）ペア準優勝



石川県選抜チームとして戦った小木中女子バスケットボール部3年の小宿（前列右から3人目）、石崎（後列右から2人目）両選手

## 能登町のジュニアアスリートたちが大活躍！



ドッジボール全国ベスト16！  
小木クラブ



厳しい県予選を勝ち抜き全国大会のコートに立った能都中女子ソフトテニス部

# こんにちは 国民年金です

## 平成17年度より新しい年金制度が始まりました

### ○保険料口座振替早割制度

・国民年金保険料の月々の口座振替に早割（当月保険料の当月末引落とし）制度ができました。  
通常5月分の口座振替は6月末に引き落としされますが、早割手続きをされますと5月分は5月末に引き落としとなり、毎月40円が割り引きされます。

### ○保険料納付猶予対象の拡大

#### ・学生納付特例制度

20歳以上の学生については、在学中の保険料納付を猶予する「学生納付特例制度」が設けられています。これは本人の所得が一定以下の学生を対象としており、申請により適用されます。  
平成17年4月からすべての各種学校(修業年限が1年以上)が対象となるように改正されました。  
申請は毎年必要です。5月中に申請書を提出してください。

#### ・若年者納付猶予制度

「保険料が高くて納付できない」そんな20歳代の方を対象とした「若年者納付猶予制度」が始まりました。  
納付の猶予を受けるためには、申請書の提出が必要になります。

### ○第3号被保険者の特例制度

・第3号被保険者（サラリーマンなど厚生年金保険に加入する方の被扶養配偶者）の届出が遅れたときに、この特例の届出をすることにより制度開始（昭和61年4月1日）までさかのぼって認められ、将来の年金額にも反映されることになりました。

## 該当される方は早めに手続きをしましょう

詳しくは社会保険事務所、または下記の窓口にお問い合わせください。



#### 〈窓口・問い合わせ〉

町民課	☎72-2501
能都総合サービス課	☎62-8500
柳田総合サービス課	☎76-8300
小木支所	☎74-1111

七尾社会保険事務所 ☎0767-53-6511

#### ●行政相談員



重木幸長  
五十里 (☎76-0650)

#### 定例相談所

日時：毎週火曜日  
午前10時～午後3時  
場所：笹ゆり荘

#### ●行政相談員



吉岡梅子  
柿生 (☎67-1920)

#### 定例相談所

日時：毎月19日  
(休日の場合は前平日)  
午前9時～12時  
場所：能都庁舎

#### ●行政相談員



芳野洋子  
小木 (☎74-1307)

#### 定例相談所

○日時：毎月10日  
(休日の場合は翌平日)  
午後1時30分～3時30分  
場所：内浦福祉センター

○日時：毎月20日  
(休日の場合は翌平日)  
午後1時30分～3時30分  
場所：小木地区活性化センター

石川行政評価事務所でも、相談を受付けています。

#### ●石川行政評価事務所

住所 〒920-0962  
金沢市広坂2-2-60  
広坂合同庁舎4階  
電話 076-222-5231 (代表)  
0570-090110  
(行政苦情110番)

〈問い合わせ〉総務課 ☎62-8510

行政相談員は、行政に対する苦情や意見、要望がある場合に相談を受け、よりよい行政運営の実現を目指します。

このたびは重木幸長さん、吉岡梅子さん、芳野洋子さんの3人が、総務大臣から行政相談員に委嘱されました。

行政相談は、次のところで受付けていますので、お気軽にご利用ください。(相談は無料で、秘密は固く守られます。また、口頭、

電話、手紙のいずれの方法でも構いません。)

わたしたち行政相談員が相談をお受けします



3/28

鬼

ON I U C H I  
討  
す  
祭  
り  
M A T S U R I

木住地区・木住神社の春祭り「鬼討ち祭り」と花祭りは3月28日に行われました。

400年以上の伝統があるこの祭りは、昔から災いの象徴とされてきた猿鬼を退治したことを祝って行われた祭りであるといわれています。

神事の後に、的に描かれた鬼に向かって氏子らが次々と矢を放ちます。最後にとどめを刺して鬼を退治すると、神社の中で花祭りが行われます。花祭りは桃の枝を持って宮司や氏子らが即興で踊る祭りです。踊りはユーモラスな動きが多く、神社内は笑いで包まれます。

踊りが終わると、赤・白・緑色の菱餅がまかれて祭りは終了します。五穀豊穡と無病息災を祈願する「鬼討ち祭」は、奥能登地方に数多く存在する『猿鬼伝説』を今に伝える祭りの一つです。



4/2

酒

樽がえし

SAKATARU GAESH I



藤波地区・神目神社の春祭り「酒樽がえし」は毎年4月2日に行われます。この祭りは、下帯姿の若衆が田んぼや海に入って酒の入った樽を奪い合うという奇祭で、今年は16人の若衆が参加しました。

神社でお祓いを受けた後、樽に一斗(18 l)の日本酒を注ぎ込み、「わっしょい、わっしょい」と樽を担いで田んぼに向かいます。たくさんを見物客やカメラマンが見守る中、泥だらけになりながら酒樽を奪い合いました。

次に海へと移動し、再び酒樽を奪い合います。奪い合う途中には、何度か栓を抜いて樽の中の酒を飲みます。また終わった後には鏡を割り、酒が振る舞われます。樽の中で揺さぶられた酒は木の香りと酒の甘みが増し、とてもおいしくなります。「年に一度しか味わえないこの酒の味は格別だ」と若衆はいいます。



十郎原・日桂神社の春祭り「弓ひき祭り」は、4月3日に行われました。

この祭りは、氏子らが的に当たった矢の本数でその年の稲作の作柄を占うという祭りです。

氏子らは、神社でお祓いを受けた後に社の前で鏑矢を一斉に放ちます。この鏑矢には、害虫を追い払い豊作を祈るという意味があります。この後境内に戻り、的に向かって矢を放ちます。猿田彦に邪魔をされながらも、精神を集中して弓を引き、豊作を祈る姿からは、農業の大切さと大変さが伝わってきます。

YUMIHIKI MATSURI

4/3

弓ひき祭り

4/16・17

曳山祭り

H I K I Y A M A  
M A T S U R I

宇出津地区の春祭り「曳山祭」は、毎年4月の第3土日曜日に開催されます。

宇出津の曳山は、高さ6m、幅8m、車輪の直径は1mで山車の中央には人形が飾られ、その周りをたくさんの子どもたちが乗り込みます。白山曳山と酒垂曳山の2台の曳山は、木遣り唄に合わせて、宵山・朝山・本山の3回に渡り、宇出津の町を曳きまわりました。

今年初めて曳山の上で木遣りを披露した唄い手は、「来年はもっとうまく唄いたい」とかすれた声で話していました。



春の訪れを告げる

さくら前線北上中の3月下旬から4月にかけて、能登町の各地では、今年の豊作・大漁を祈る春祭りが行われました。

能都町駅伝ラストラン

最後の能都町駅伝がスタート



第34回能都町駅伝大会が3月27日、のとスポーツピアツツアを会場に行われました。今年度で最後となったこの大会には、24チーム、96人のランナーが参加しました。選手らは、仲間や家族の声援を受けながら、アップダウンの厳しいコースを走り、一生懸命たすきをつないでいました。

優勝チーム	一般の部	高倉の魂
	中学生の部	能都中男子バスケ部
	小学生の部	鶴川ワイルド少年団A
	オープンの部	飯田高校C
	女子の部	柳田陸上教室小学女子

深層水の利活用を探る！

ひと味違う!? 深層水を使った海鮮鍋を召し上がれ



第2回のと海洋深層水フェアが3月27日、ホテルのとकिनぶらで開催されました。

海洋深層水を使った海鮮鍋やおにぎり、コーヒーなど500食分が振る舞われ、家族連れなど大勢の人で賑わいました。会場ではうどんやイカ、酒、化粧品などの深層水を活用した特産品の試食・販売コーナーや深層水風呂の無料入浴など、深層水のいろいろな利活用を体験できました。

町の発展のカギとなりうる海洋深層水は、今後も研究開発が進められ、特産品や加工品など能登町独自の利活用策が探られます。

瑞穂中学校が能登町キャンペーン隊を結成！



能登町の自分が大好きなところをアピールしてきます！

▲「能登町が誕生しました。ぜひ能登町に来てください」と街頭で声をかける生徒たち



修学旅行先で、新しく誕生した能登町をアピールしようと瑞穂中学校の3年生13人が4月12日、能登空港内で能登町誕生キャンペーン隊を結成し、出発式を行いました。

隊長の川端光明くん（3年）は「能登町のことを多くの人に知ってもらいたいです」と意気込みを語り、出発式にかけつけた松本教育長から「能登のすばらしい自然や資源があることを元気にアピールしてきてください」と激励の言葉が贈られました。

能登空港を利用して東京に向かった生徒たちは、翌13日に、有楽町にある「能登ふるさとPR館」前で、街頭キャンペーンを行いました。街頭では、能登町の特産品やリーフレットと一緒に、生徒の手作りによる能登町の観光パンフレット200枚を配布しました。生徒たちにとってこの体験は、能登町の一員として、町の未来を、瑞穂の未来を考える一日となったことでしょう。

坂下ちよさん 100回目の誕生日

町長と大切な家族に囲まれて



能登町が誕生してから、初めて満100歳の誕生日を迎えられた坂下ちよさん（白丸）をお祝いしようと4月17日、持木町長が坂下さんの自宅を訪問しました。1905年（明治38年）4月10日生まれの坂下さんは、農業一筋で現在も庭の草むしりをするなど大変お元気で、町長からお祝い金と花束を受け取ると「もったいないです、ありがとうございます」とお礼の言葉を述べました。

遠くからお祝いに駆けつけたお孫さんや、ひ孫さんたちと一緒に記念すべき日を迎えた坂下さん。これからもどうぞ長生きしてください。

ナイターの下で大好きな野球

がんばれ！未来の大リーガー



内浦野球場の夜間照明完成記念点灯式が3月26日、町内の少年野球クラブや野球関係者らが参加して行われました。式典では田形町長職務執行者が「低迷している野球環境を活気あるものにしてほしい」とあいさつを述べた後、本谷体育協会会長、松波野球クラブの井高くん（6年）、小木クラブの上野くん（5年）と共に夜間照明の点灯を行いました。

式典後には念願であった設備完成を記念して、交換学童野球大会が開催され、選手たちははつらつとしたプレーを見せていました。

その施設の名は「やなぎだきょうようぶんかかん」

高い所の本は階段を使って取り出してね

▼テープカットで新たな施設がスタート



今年2月に完成した、柳田教養文化館の開館式が4月18日、柳田小学校の6年生や関係者70人が出席して行われました。持木町長が「木の香りが漂う明るいこの施設を、多くの町民に利用してもらいたい」と式辞を述べた後、館内でテープカットが行われました。引き続き、柳田小学校の図書委員5人が教養文化館の使い方を読み上げ、「親しみやすい文化館にしましょう」と呼びかけました。

この施設は、児童図書や小説、実用書などの蔵書総数が2万冊以上で、歴史やアニメのビデオを鑑賞できるビデオコーナーも完備されています。また館内には、旧柳田小学校の校舎で使われていた、思い出深い木製の机やイスも配置されています。ガラス張りので、四季の移り変わりを感じながら読書などを楽しむことができるこの文化館に、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。